

住宅用火災警報器の適切な維持管理のお願い

住宅用火災警報器は火災が起きたときにこそ正しく働かなければなりません。そのためにも、日頃から「点検」と「お手入れ」をしておきましょう。また、古くなったものは「交換」しましょう。

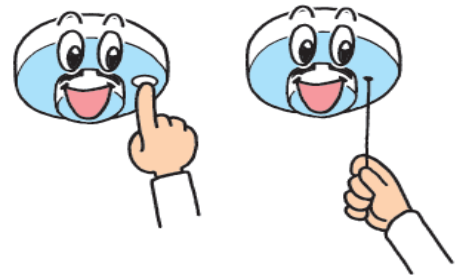


□点検（作動確認）のしかた

住宅用火災警報器の「ボタンを押す」または「ひもを引く」と、テスト音が鳴ります。音が鳴らないときは次のことを確認しましょう。

- ① 電池がきちんとセットされていますか？
- ② 電池切れではありませんか？

点検は設置（設置場所の変更）したときやお手入れをしたときなど、最低限1年に1回程度行いましょう。

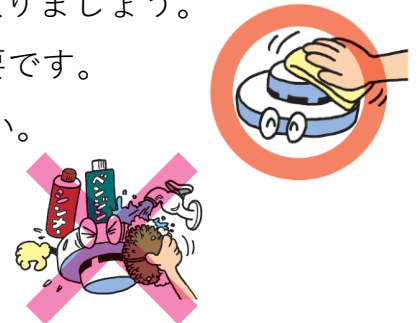


□お手入れのしかた

住宅用火災警報器にほこりやクモの巣が付くと、火災発生を感知しづらくなります。1年に1回は十分にしぼった布若しくは乾いた布でふき取りましょう。

次のことは故障・破損の原因となりますので注意が必要です。

- ・ ベンジン、シンナーなどの有機溶剤は使用しない。
- ・ 水洗いしない。
- ・ 煙の流入口をふさいだり、傷つけない。



□交換時期について

住宅用火災警報器は古くなると電子部品の寿命や電池切れなどで、火災を感知しなくなることがあるため、とても危険です。交換期限は設置した機種によって異なりますが、おおむね10年を目安に交換しましょう。

◇自動試験機能が付いている住宅用自動火災警報器

⇒ 機能の異常（故障や電池切れ）を示す警報ランプや警報音があったときに本体ごと交換しましょう。

◇自動試験機能が付いていない住宅用自動火災警報器

⇒ 本体に表示された交換期限や説明書の記載に合わせて本体ごと交換しましょう。

※交換の方法など詳しくは取扱説明書をご確認下さい。